

大きな環境変化を乗り越えるため、 誇りが持てる業界に

平成26年度厚生労働大臣表彰受賞者祝賀会並びに懇親会
(平成26年度祝賀会・懇親パーティ)



壇上で乾杯を唱和する来賓

厚生労働大臣表彰受賞者祝賀会と懇親会は、自由民主党衆議院議員の田村憲久氏の特別講演のあと17時30分から開催された。会場となったパレスホテル東京「葵」には塩崎厚生労働大臣、来賓の国会議員、関連団体代表者の出席のもと、会員、賛助会員、報道関係者など総勢632名の多数の参加者があった。(日時:平成27年1月29日(木)、場所:パレスホテル東京2階「葵」)

最初に司会者より、平成26年度厚生労働大臣表彰を受賞された内匠屋理氏、安藤謙治氏の紹介があった。

○平成26年度厚生労働大臣表彰

内匠屋 理(元日本医薬品卸売業連合会理事)

安藤 謙治(元石川県薬業卸協同組合会長)

続いて、主催者を代表して、一般社団法人日本医薬品卸売業連合会の鈴木賢会長から次のような挨拶があった。



受賞された安藤氏(左)と内匠屋氏



卸連合会の鈴木会長



塩崎厚生労働大臣

「先ほどは田村前厚生労働大臣に大変有意義なご講演をいただきありがとうございました。本日はお忙しい中、多くの来賓の方々にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方には日頃から、私ども卸連合会の事業運営に一方ならぬ、ご指導、ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第でございます。

そして、長年にわたる功績により、厚生労働大臣表彰を受賞されたお二方には、本当におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

さて、昨年は4月の薬価改定、診療報酬改定による未妥結減算ルールの導入、そして消費税増税が行われるなど、対応しなければならない多くの課題がありました。さらに、新薬創出加算制度の試行継続、後発品の使用促進に伴い、市場における医薬品の品目カテゴリーが急速に変化し、業界環境、市場構造の大きな転換期を迎えた年となりました。

特に未妥結減算ルールは、薬価調査の信頼性を確保する目的から導入されたことから、医薬品卸としては、取引の一方の当事者としての責任を自覚して早期妥結をめざしました。しかしながら従来以上に厳しい価格交渉を強いられるケースや、単品単価交渉が行いづらいケースが少なくありませんでした。結果として妥結率は高まりましたが、流通改革を進める医薬品卸としては不本意な面もありました。今後とも価値に見合った適正価格で単品単価取引を一層推進し、真の流通改革につなげていかなければならないと考えています。

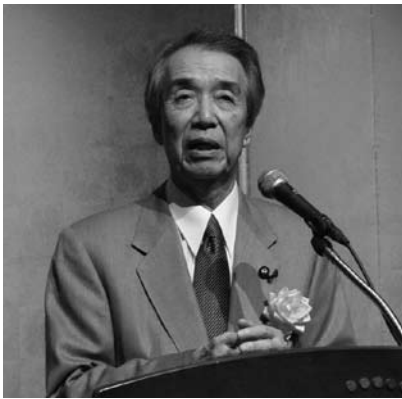
また、先ほどの田村先生のお話にもありましたけれども、薬価の毎年改定に関する議論が昨年から活

発化してまいりました。6月に閣議決定されました骨太の方針の中に、薬価調査・薬価改定のあり方について、その頻度を含めて検討するとされています。本年は中医協の場でも議論されることと思いますが、卸連としては毎年改定の影響を踏まえて、反対姿勢を貫いてまいりたいと思います。ただし、単に反対するだけではなく、この議論の根幹がどこにあるのかを理解し、どのような対応が必要なのかを私たちは検討していかなければならないと自覚しております。

医薬品卸業界として、現在取り組んでいることに、「消費税表示カルテル」があります。これは、消費税相当額を除いた本体価格で価格交渉を行うようにしようということで、昨年10月より実施中です。医薬品の価値を的確に把握して取引を行うためにはぜひ必要なことですので、旧来の取引慣行にとらわれず、新しい方式に速やかに移行していただきたいと思っていますので関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

本年は阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年になります。私たち医薬品卸は、社会インフラの一翼を担う存在であることを自覚し、大規模災害、非常時にも医薬品の供給を継続できるように、経営基盤の強化を図っていくことが重要であります。

また、現在進めております流通改革は、決して後戻りできないということであります。いま私たちは、まさに大きな環境変化の中におります。その変化を乗り切るためにも、これらの取り組みを通じて業界に身を置く者全員が誇りを持って仕事ができ



伊吹前衆議院議長



日本医師会の横倉会長



日本薬師会の山本会長

る業界としていきたいと考えています。

「本年も皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、お願いを申し上げまして挨拶いたします。」

続いて、塩崎恭久厚生労働大臣から次のような挨拶があった。

「お二人におかれましては、この度のご受賞誠にめでたうございました。これまでのご功績に改めて敬意を表し、また、これからのさらなる活躍をお祈り申し上げたいと思います。」

厚生労働行政に対しまして、いつも皆様方に変にお世話になっておりますことを感謝申し上げます。今年も謙虚に丁寧、しかし力強く、一年間頑張っていかなければいけないと思っています。

卸の皆様方には、ちょうど阪神・淡路大震災から20年、そしてまた、東日本大震災から4年という月日が経つわけですけれども、あのようなときに薬が一人ひとりの国民や患者さん、被災者に届くかどうか、本当に大変な経験をされたと思います。皆様方のご苦勞で助かったという人たちがたくさんおられたはずでございますので、薬の流通で頑張っている皆様方には改めて感謝申し上げ、そして、これからもさらにお力を出していただき、安心できる日本にしていいただければと思う次第です。

この間、スイスのダボスでダボス会議がございました。厚生労働大臣として医療、長寿社会と健康、そういうセッションに参加し、WHOの役割などいろいろ勉強になりました。そういった会合に出てきて分かるのは、やはり長寿社会と医療をどうしていくのかという問題について、特に日本に熱い視線が向けられていて、長寿先進国である日本がど

うやってこれを乗り切っていくのかというところに世界の関心があるのだらうと感じました。

今年は「地域包括ケアシステム」を本格稼働させます。医療の方でも各都道府県において医療の新たな仕組みをつくる年でもありますから、これはまさに皆様と一緒に将来の医療を変えていく大事な年になると思います。これは単に医療だけでなく、一人ひとり、我々将来そうなるであろう、長寿社会の中で地域包括ケアができていのかということと一緒に考えていかなければならないのではないかとこのように思いました。

そんなことで、ぜひ世界に、こうやっていけば楽しく、元気に生きていけるぞということが分かるような、そんなことが示せるように皆様と一緒に力を合わせてまいりたいと思いますので、ご指導のほどをよろしく願い申し上げます。」

続いて、ご来賓の国会議員の先生方を代表して、伊吹文明前衆議院議長から次のような挨拶があった。

「ご受賞をお受けになりました皆様、本当におめでたうございました。このたびは、業界の皆さんに温かいご支援をいただきまして、代表して厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。」

大切なことを1つだけ、申し上げておきます。予算編成の際に、薬価を毎年、毎年改定するという話がありました。これはもう医療関係者にとっては大変迷惑な話で、特に製薬業界からすると、長期的な視野での開発が非常にやりにくい。何よりも一番困るのは卸の皆さんなのですね。商売そっこのので、毎年改定になると、毎年その実態調査にかかわらなければいけない。年度末の在庫の計算から、



藤井参議院議員



日本製薬団体連合会の野木森会長



薬政連の鹿目会長

商売のやり方から、大変なことが起こりますので、これは実態からすると無理であるというのを財務省もよく理解をいたしましたので、今後はどうか安心してお仕事をさせていただきたい。」

次に、公益社団法人日本医師会の横倉義武会長から挨拶があった。

「皆様ご承知のとおり、医療用医薬品は人の生命に直接かかわるものでございまして、私たち医師が行う日々の診療において欠くことのできないものであります。特に医療用医薬品の適正な流通への努力は、医薬品の安定供給につながるだけでなく、わが国の医療保険制度を支えている薬価基準制度の適正な運用を担うものであり、その制度を根底から支えていただいているといっても過言ではないと思います。

こうした医薬品流通において、長年にわたりましてご尽力され、この度そのご功績によって受賞の栄に浴されました内匠屋様、また安藤様に対して心か

らのお祝いを申し上げる次第であります。

わが国は超高齢社会を目前にしております。2025年というのが、団塊の世代の皆さんが75歳以上になる年ということで、それまでの10年間にしっかりと日本の医療や介護の提供体制を整えて、安心して老後が暮らせる体制を全国津々浦々につくっていかねばいけない、という年だろうと思えます。この輝ける2025年になるのか、くすんだ2025年になるのか、この10年が大きな勝負のときであろうと思っております。

こうした中で、消費税の10%への引き上げが1年半先延ばしされましたが、2025年の少子高齢社会を見据えて、住み慣れた地域において、かかりつけ医を中心とした切れ目のない医療介護を国民に提供し、地域包括ケアを推進するために、適切な財源が確保されなければならないということは、論をまたないところであります。

そして、社会から支えられる高齢者が社会を支える側になるように、健康寿命を延伸することによりまして、公的医療保険による国民皆保険制度を堅持し、持続可能な社会保障制度としていかなければならないと思えます。医療機関と医薬品卸は、一心同体でありまして、いままで様々な課題においてお互いに協力をし合いながら、地域医療を支えてまいりました。これからは世界に先駆けて本格的な超高齢社会を迎えるにあたり、卸連合会におかれましては、健康を求める国民の期待に応え得る医薬品の安定供給と流通に向けて、さらなるご尽力を賜りますよう、国民皆保険の保険者共通の理念として、国民医療の推進に向けてさらなるご支援のほどをこの場をお借りしてお願いを申し上げます。」

歓談する来賓
(中央は田村前厚生労働大臣と伊吹前衆議院議長)





大勢の出席者で賑わう祝賀会場



会場となったパレスホテル

続いて、公益社団法人日本薬剤師会の山本信夫会長から次のような挨拶があった。

「私どもは、医薬品を供給することを通じて国民の皆様健康にかかわっている、医療にかかわっていると自認しております。ただ、薬剤師でありますので、皆様方、特に医薬品卸の方々の全国隅々までデリバリーシステムができていないと、仕事できません。そのことにつきまして改めて御礼申し上げます。

国では、高齢化を迎える2025年に向けて、地域包括ケアのシステムを構築し、その中で薬剤師、あるいは薬局を活用していこうということですが、これまでは処方箋を通じた調剤が大きなウエイトを占めておりました。その意味では頻回改定については、卸さんだけではなく、私どもにも大変大きな影響があります。そのことについては、きょう、ご来賓でお見えの国会議員の先生方にぜひご承知していただきたいと思っております。

その一方で、セルフメディケーションを通じて

会場から皇居を望む



地域の方々の健康を守ろうとする動きがあります。そうした意味では両方をしっかり支えることが国民の期待に応えることだと思っています。そのためには、単純に流通システムだけではなく、金融機能を持った世界的にも珍しい日本の卸の皆さん方のご協力なしには、どんなに頑張ってもなし得ません。どうかこれからも日本薬剤師会、全国隅々の薬局薬剤師に対して医薬品の安定供給を改めてお願いし、そのことをもって国民のために働いてまいりたいと思っています。」

次に、参議院議員を代表して、藤井基之議員から挨拶があった。

「本当に昨年は、この春に皆様方と一緒に新年会とかお祝いの会ができるのかどうかと心配をしておりましたが、なんとかこの春はなにも風が吹かないで終わりました。本当に嬉しく思っています。できることなら、来年もそういう形で迎えることができたら、もっといいのかなと思っています。」

ご存知の通り2020年に東京オリンピックを開催することになっており、皆様からもお力添えをいただいております。ちょうどいま、東京で、「製薬業及びアンチ・ドーピングに係る国際会議」が開かれておりまして、東京オリンピックをクリーンなオリンピックでいきたいということで、出席の皆様方にも本当にお力をいただいております。日本の医薬品の流通はきれいだと考えております。危険なものがない、ニセ薬がないということはまさに皆様方のいままでのご活躍によるところでございます。東京オリンピックも、ぜひそういった中で迎えたいと思っています。」

挨拶される国会議員の方々



田村憲久
衆議院議員

逢沢一郎
衆議院議員

山本幸三
衆議院議員

後藤茂之
衆議院議員

高鳥修一
衆議院議員

河井克行
衆議院議員

豊田真由子
衆議院議員



鬼木 誠
衆議院議員

宮路拓馬
衆議院議員

松浪健太
衆議院議員

井出庸生
衆議院議員

衛藤晟一
参議院議員

丸川珠代
参議院議員

羽生田 俊
参議院議員

続いて、ご来臨の国会議員・来賓の方々が登壇され、関連団体を代表して、日本製薬団体連合会の野木森雅郁会長のご発声により、乾杯が行われ祝宴に移った。

このほか祝賀会・懇親会には、衆議院議員丹羽雄哉先生、鈴木俊一先生、石原伸晃先生、根本匠先生、川崎二郎先生、野田毅先生、後藤茂之先生、岩屋毅先生、木村太郎先生、とかしきなおみ先生、豊田真

由子先生、古川元久先生、参議院議員藤井基之先生、尾辻秀久先生、衛藤晟一先生、赤石清美先生、羽生田俊先生、丸川珠代先生、福岡資麿先生、三原じゅん子先生、柳田稔先生をはじめ多数の先生方にご来臨・ご祝辞をいただくなど盛会裡に宴は進み、薬政連鹿目広行会長の閉会挨拶で定刻19時に終了した。

なお、当日ご臨席の国会議員(代理は除く)は次表のとおり。(敬称略・五十音順)

○厚生労働省 3名

塩崎恭久大臣(衆・愛媛1区)、橋本岳大臣政務官(衆・岡山4区)、高階恵美子大臣政務官(参・比例)

○衆議院議員 45名

逢沢一郎(岡山1区)、赤枝恒雄(東京比例)、秋元司(東京比例)、あべ俊子(中国比例)、石原伸晃(東京8区)、井出庸生(長野3区)、伊吹文明(京都1区)、岩屋毅(大分3区)、大塚拓(埼玉9区)、岡本充功(東海比例)、鬼木誠(福岡2区)、河井克行(広島3区)、川崎二郎(三重1区)、菅家一郎(東北比例)、北村茂男(石川3区)、木村太郎(青森4区)、古賀篤(福岡3区)、後藤茂之(長野4区)、後藤田正純(徳島1区)、小松裕(北信越比例)、鈴木俊一(岩手2区)、高鳥修一(新潟6区)、高橋ひなこ(東北比例)、竹本直一(大阪15区)、田中英之(京都4区)、田畑裕明(富山1区)、玉木雄一郎(香川2区)、田村憲久(三重4区)、

津島淳(青森1区)、とかしきなおみ(大阪7区)、豊田真由子(埼玉4区)、長島忠美(新潟5区)、丹羽雄哉(茨城6区)、野田毅(熊本2区)、根本匠(福島2区)、古川元久(愛知2区)、堀内詔子(南関東比例)、松島みどり(東京14区)、松浪健太(近畿比例)、松本純(神奈川1区)、宮内秀樹(福岡4区)、宮路拓馬(九州比例)、山本幸三(福岡10区)、山田美樹(東京1区)、柚木道義(中国比例)

○参議院議員 18名

赤石清美(比例)、石田昌宏(比例)、衛藤晟一(比例)、大家敏志(福岡)、大沼みずほ(山形)、尾辻秀久(鹿児島)、小西洋之(千葉)、滝沢求(青森)、伊達忠一(北海道)、鶴保庸介(和歌山)、長峯誠(宮崎)、羽生田俊(比例)、福岡資麿(佐賀)、藤井基之(比例)、丸川珠代(東京)、三原じゅん子(比例)、若林健太(長野)、柳田稔(広島)